

ともに

02

2016年
夏号

特集 がん早期発見のために 今、できること



市民とともに心ある医療を

地方独立行政法人 市立吹田市民病院は「市民とともに心ある医療を」の基本理念に基づき、急性期医療や高度医療、救急医療を中心に、吹田市の中核病院として、質の高い安全な医療の提供に努めています。それらの取り組みを、広報誌「ともに」を通じて市民の皆さまにお伝えいたします。

胃がん・大腸がん

定期的な内視鏡検査を

胃がん・大腸がんの一番の予防法は、定期的な内視鏡検査です。がん検診はハイリスクなグループを選別しているにすぎず、また、バリウムを飲んで行うエックス線検査よりも内視鏡検査が優れていると、国立がん研究センターが認めています。

胃がんは、ピロリ菌と関係がある場合は除菌が有効と考えられ、除菌薬の進歩により非常に高い除菌率が期待できます。当院は、将来的な大腸がんの減少を期待できることから、大腸がんの前期病変とされている大腸ポリープ（大腸腺腫）に対して積極的に内視鏡治療を行っています。



患者様の負担を 和らげる施術を

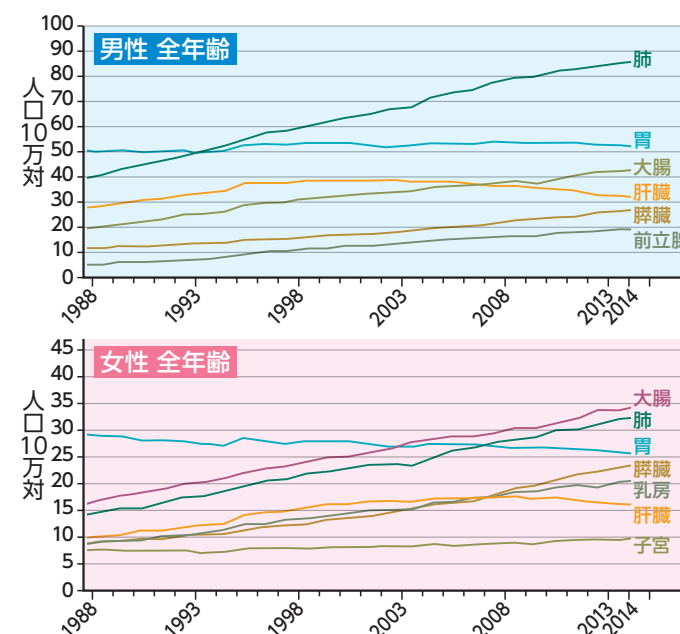
消化器内科部長・内視鏡センター長 長生 幸司
(ながいけこうじ)

内視鏡検査は苦痛や不快感から、敬遠される方も多いのではないのでしょうか。当院は鎮静剤や細いカメラを鼻から入れる経鼻内視鏡を使用し、負担を和らげる施術を実施しています。胃がん、大腸がんの早期発見のために定期的な内視鏡検査をおすすめしています。ぜひお気軽にご相談ください。



内視鏡による検査

部位別がん 死亡率 年次推移



資料：国立がんセンター がん対策情報センター

大腸がんは、死亡率は年々増加傾向にあり、2014年は部位別死亡率で女性は第1位、男性は第3位となっています。大腸がん死亡者数は年間5万人を超え、米国を上回るようになってきています。

INFORMATION

時刻表

江坂駅発	病院発
8:10	8:30
9:00	9:20
9:40	10:00
10:20	11:00
11:20	11:40
12:00	13:30
13:50	14:10
14:30	15:10
15:30	15:50
16:10	—

※渋滞などでダイヤに乱れが生じる事があります

のりば案内
【江坂駅バス停車位置】

東急ハンス
至豊中
新御堂筋
銀行
コーヒーショップ
バス停車位置
セブンイレブン

ご利用ください 無料送迎バス

平日の月・金曜日（祝・休日、年末年始は除く）に地下鉄江坂駅と吹田市民病院を往復します。バスは23人乗り（車椅子2人含む）で途中下車はできません。

申し込み
はがき及びFAXで「市民公開講座、氏名、住所、電話番号を明記の上、市民病院地域医療連携部まで（〒564・8567 住所不要）お問い合わせ」

地域医療連携部（TEL 6387・3311、FAX 6387・3315）

参加費無料

第6回 吹田市民病院 市民公開講座

演題
「牛乳は骨粗鬆症の予防になるのか？」

栄養部 参事 南野 幸生
「メタボと言われたら...」
「リバウンドなく確実に痩せる方法、認知症・がん予防にも有効」

消化器内科・栄養部 部長 井上 信之

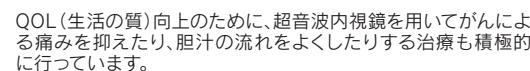
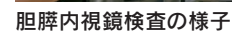
場所
千里山コミュニティセンター 多目的ホール

日時
8月27日（土）午後2時～4時

申し込み
はがき及びFAXで「市民公開講座、氏名、住所、電話番号を明記の上、市民病院地域医療連携部まで（〒564・8567 住所不要）お問い合わせ」

特集

先進の医療機器と
優れた技術で
皆様をサポートします



重要なのは血液検査と腹部エコー検査です。異常があればCTやMRIなどで精密検査をします。近年、超音波内視鏡（EUS）という特殊な胃カメラを使った検査の普及により、小さな病変まで見つけることが可能となりました。またEUSを用いて組織を採取し正確な診断を行うことで、適切な治療方針を選択できるようになりました。

胆道がん・膵がん

消化器内科医長 湯口 清徳
(ゆぐちきよのり)

当院では患者様の負担をできる限り軽減するため鎮静剤や鎮痛剤を用いて超音波内視鏡検査・治療を行っていますのでご安心ください。

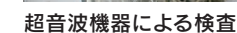
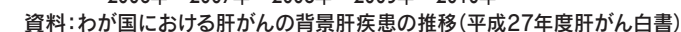


資料:国立がん研究センターがん対策情報センター

ところが、がんが周りの臓器やリンパ節に広がったり（領域転移）、遠く離れた臓器まで広がったり（遠隔転移）するにつれて、5年生存率は下がってしまいます。5年生存率を上げるには早期発見、治療が欠かせません。特に胃、大腸がんは術後、再発の恐れが少なくなり、普段の生活を送れ、長期の入院、治療による負担を軽減できます。

早期発見で高まる
5年生存率

ところが、がんが周り



肝生検とは、腹部に細い針を刺して、肝臓の組織の一部を採取する検査です。肝疾患の原因や病態がわかり、診断や治療法の決定に必要な検査です。

原因の約6割を占める C型肝炎の検査と治療を

肝臓がん

副院長 内藤 雅文
(ないとうまさふみ)

平成28年4月より吹田市民病院・消化器内科はスタッフが大きく入れ替わり、新たな体制となりました。肝臓、膵臓・胆道、胃、大腸の病気に関して、知識と経験を備えた専門医(肝臓専門医2名、内視鏡専門医6名)が対応いたします。お気軽にご相談ください。

消化器内科部長 吉田 雄一
(よしだゆういち)

肝炎ウイルス感染者は国内にC型肝炎が約150万人、B型肝炎が約130万人と推測され、その3割は自分が感染していることに気づいていないと考えられています。感染していても、肝臓は「沈黙の臓器」と称されるように自覚症状がないため、肝硬変や肝臓がんに行進している人が少なくありません。最近のウイルス性肝炎の治療は進歩しており、適切な治療で深刻な症状に行進するのを防ぐことができます。また、最近、生活習慣病を背景にする「メタボ肝がん」が増えています。肝炎ウイルスや脂肪肝は当院で簡単に調べられます。まだ検査を受けたことがない方は、一度受診してみましょう。

C型肝炎

C型肝炎の治療法は画期的に進歩しています。飲み薬だけのインターフェロンフリー治療が登場し、副作用を気にせず安心して治療を受けていただけます。

B型肝炎

B型肝炎の抗ウイルス療法として、飲み薬やインターフェロンによる治療を受けていただけます。経験豊富な専門医が、最適な治療法をご提案します。

脂肪肝

近年のメタボリックシンドロームの増加により、脂肪肝すなわち非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD:ナッフルド)が急増しています。中でも、肝硬変、肝臓がんに進行する可能性がある非アルコール性脂肪性肝炎(NASH:ナッシュ)は要注意です。人間ドックなどで脂肪肝と診断されたら、ぜひ当科外来を受診してください。